



令和5年度 第9回大垣市中学生 ベルギー・ナミュール市研修派遣



2023年9月15日～9月24日

令和5年度フレンドリーシティ交流事業

第9回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業

団員名簿 (学年、五十音順)

派遣期間：令和5年9月15日(金)～9月24日(日)

No.	役名	氏 名	性別	学校名 役職名 もしくは 学年
1	団長	たなか まさき 田中 正樹	男	大垣市立江並中学校校長
2	総務兼通訳	くにえだ しゅうすけ 國枝 秀祐	男	大垣市立興文中学校教諭
3	総務	よしやす みえ 吉安 三恵	女	(公財)大垣国際交流協会職員
4	団員	こんどう なるき 近藤 為希	男	大垣市立東中学校1年
5	団員	さだい ななみ 定井 七海	女	大垣市立北中学校1年
6	団員	きしもと せりな 岸本 芹奈	女	大垣市立星和中学校2年
7	団員	せんだ とあ 千田 桃彩	女	大垣市立興文中学校2年
8	団員	もり こうめ 森 心梅	女	大垣市立興文中学校2年
9	団員	やまかわ なつみ 山川 夏実	女	大垣市立東中学校2年
10	団員	にしやま さほ 西山 沙歩	女	大垣市立北中学校3年
11	団員	ひぐち せいや 樋口 晴哉	男	大垣市立赤坂中学校3年

第9回 大垣市中中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣団 日程表

派遣期間： 令和5年9月15日(金)～9月24日(日) [10日間]

派遣人数： 11人 (引率者3人(団長1人、総務2人)、中学生8人)

	月 日	現地時間	交通機関	日 程
1	9月15日 (金)	2:15pm 7:00pm	公共交通機関	JR大垣駅集合 2:41pm大垣駅⇒名古屋駅、品川駅経由⇒6:28pm成田空港駅 成田空港周辺ホテル到着 【ホテル泊(成田空港周辺)】
2	9月16日 (土)	7:00am 8:10am 10:50am 6:30pm	全日空(NH231) 	ホテル内で朝食 ホテル出発 成田空港へ移動 成田空港発(ブリュッセル空港へ)〈所要時間14時間40分〉 ブリュッセル空港着、ホストファミリーと対面しホストファミリー宅へ 【ホームステイ①】
3	9月17日 (日)			《ホストファミリープログラム》 一日、ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ②】
4	9月18日 (月)	8:00am 8:30am-4:30pm 4:30pm 6:30-8:00pm		Champion学校集合 中高一貫校「Institut de la Providence(Champion)」訪問 [英語クラス、科学クラス、文化交流クラス、チョコレート作り体験] ホストシスター・ホストブラザーと帰宅 空手体験 [ナミュール市内の空手道場にて] 【ホームステイ③】
5	9月19日 (火)	8:15am 8:30-9:00am 9:00am-1:00pm 2:00-5:00pm 5:00pm	バス 徒歩 ↓	Champion学校集合 中高一貫校「IATA」訪問 [宝石学科、時計学科、写真学科見学] ナミュール市表敬訪問、ナミュール城砦 ホストシスター・ホストブラザーと帰宅 【ホームステイ④】
6	9月20日 (水)	8:30am 10:30am-4:50pm 5:45pm	電車	ナミュール駅集合(電車でリエージュへ) リエージュ(Liège)訪問 [ワロン民族博物館、城砦、展望台、ムーズ川のボート乗船] ホストシスター・ホストブラザーと帰宅 【ホームステイ⑤】
7	9月21日 (木)	8:15am 8:30am-11:45am 0:30-4:00pm 4:00-6:00pm 7:00-9:30pm	バス	Champion学校集合 中高一貫校「Institut de la Providence(Champion)」訪問 [ホストシスター・ホストブラザーの授業に参加、小学生と交流] Le Nidといちご博物館 ナミュール市内で自由時間 さよならパーティー 【ホームステイ⑥】
8	9月22日 (金)	8:30am 10:00-4:00pm 5:45pm	バス ↓	ホストファミリーとお別れし、ナミュール出発 アントワープ(Antwerp)見学 [聖ポール教会、アントワープ中央駅、フルン広場、 マルクト広場、聖母大聖堂] ブリュッセル到着 【ホテル泊(ブリュッセル)】
9	9月23日 (土)	9:00am 9:00-4:30pm 9:10pm	全日空(NH232) 	ホテル発 ブリュッセル(Brussels)見学 [サンカントネル公園、EU議会、ギャラリーサンクチュベール、 グランプラス、王立美術館] ブリュッセル空港発(成田空港へ)〈所要時間13時間35分〉 【機内泊】
10	9月24日 (日)	5:45pm 11:40pm	公共交通機関	成田空港着 7:48pm成田空港駅⇒品川駅、名古屋駅経由⇒11:33pm大垣駅 JR大垣駅解散

訪問先の紹介

ベルギー

	ベルギー	日本
人口	約 1,170 万人	約 1 億 2,430 万人
面積	30,528km ²	377,972km ²

【公用語】

3つの公用語があり、主に北部はオランダ語、南部はフランス語、ドイツ国境近くの一部ではドイツ語が公用語です。またブリュッセル首都圏では、オランダ語とフランス語が公用語で、公共の案内は2つの言語が併記されていました。

フレンドリーシティのナミュールは、フランス語圏に位置しています。



【料理】 おいしい料理がたくさんあります。いくつか紹介します。他にもワッフルなどスイーツもいろいろありました。



▲ムール貝



▲フリッツ(フライドポテト)



▲リエージュ風肉団子



▲ジビエ料理(うさぎなど)

ナミュール市

	ナミュール市	大垣市
人口	約 11 万人	約 16 万人
面積	175.50km ²	206.52km ²



▲ナミュール市の市庁舎の壁画
(ベルギーの有名なものが描いてあります)

ナミュール市は、ベルギーのほぼ中央、首都ブリュッセルの南東 60km に位置するナミュール州の州都です。市の中心部には、サンプル川とムーズ川が合流し、古くから交通の要衝として栄えたことから、中世には軍事の要衝として多くの城砦が築られました。街並みには、その歴史遺産が今も引き継がれ、中世ヨーロッパの面影を残す景観は「ムーズ川の真珠」と讃えられています。市内には、観光名所の「城砦」をはじめ、世界遺産の「鐘楼」があるなど、歴史・文化が息づく都市です。

大垣市とは、1998 年(平成 10 年)、大垣市制 80 周年の年にフレンドリーシティとなり、以降学生交流を中心に交流をしています。派遣事業は平成 13 年(2001 年)に始まり、今回が 9 回目となりました。



▲ナミュールの街並み



▲ナミュール城砦

積極性と好奇心、チームワーク、言葉、長い付き合いの始まりを祝福する

団長（大垣市立江並中学校 校長） 田中 正樹

この研修を引率する機会に恵まれ、生徒の成長の姿を目の当たりにできたことが大きな喜びです。

1 積極性と好奇心

一番の私の驚きと喜びは、生徒たちの積極性と好奇心の強さです。「～やる人は？」と問われると「私がやる」と進んで手を挙げました。自分から、何でも見て、何でも聞いて、何でも触って、何でも食べました。その好奇心を、例えば、チョコレート作り体験やリエージュのワロン博物館見学等、あらゆるところで発揮しました。何でも食べてみよう、ワッフル、チョコレート、アイスクリーム、フヒッツ等、自由時間のたびに買って食べている姿、また、それをみんなに分け合って食べている姿が、素敵でした。セ・ボン！また、英語の授業で、現地の生徒より先に手を挙げて発言した生徒がいました。プレゼンの大垣紹介、歌、兜（かぶと）の折り紙説明は、大好評。セ・テ・ボン！中1生徒でも英語の表現力があり、「小学校から力を入れた大垣の英語教育はうまくいっている」と確信しました。



左から筆者、ナミュール市長、シュウ、フロヒアン、メヒアン、前列ミエ

2 チームワーク

1つ目に、この派遣団内で名前を呼び合う時、first name basis としました。（例）ジュマペール Masa.これには2つの意味があります。①Friendly であること（先生も含めて）②ベルギーの学生や家族のために first name を短く呼びやすくしたこと。2つ目に、校外学習の場面です。「待望の自由時間です。でも、安全上、一人にならないで複数で行動してください。」「それじゃあ、生徒みんなで行こうか」とまとめ、大人と離れて冒険していました。自主性と協調性のバランスがトレビアン。大垣紹介プレゼンテーションも協力して、チームワークのよい仲間になりました。

3 言葉を学ぶこと

耳からあふれるくらい、たくさんのフランス語や英語を聞きました。体験的に学ぶ経験は、とても貴重なものでした。ワラ（ほらね）、カムサ？（これでいいの？）ダコー（わかった）、パハドン（ごめんね）、メルシ（ありがとう）など、体験を通して得た言葉は忘れません。一方、博物館や EU 会議場では、ナチュラルスピードの英語の聞き取りに苦労しました。引率者は、「安全上の注意」以外は、ほぼ通訳しませんでした。分からなくても意味を類推しながら聞き取りようとする生徒の姿勢がマニフィーク。「英語の先生になったら、（説明の英語が）分かるの？」「はい。英語力に加え、歴史や文化についての背景知識が必要です。言葉と文化、歴史、宗教、生活は結びついています。」

4 長いお付き合いの始まり

Facebook や WhatsApp など、SNS を使って、時差を乗り越え、瞬時に世界とつながることができる時代になりました。私もこれまでに何人かの海外の友人を得て、行ったり来たり、今も交流を続けています。この研修は、未来へつながるお付き合いの始まりです。末永く Keep in touch.

5 謝辞～メルシー、アビアント

○チャンピオン中等教育学校（6年制）の生徒の皆さんへ

大垣の中学生といっしょに活動し、いろいろなことを教えてくれました。再会が楽しみです。

○受け入れてくださったホームステイの家族へ

温かく迎えてくださり、おもてなしとベルギーの実生活の体験をさせてくださいました。

○ナミュール市の方々とチャンピオン中学校、IATA の先生方、特にフロヒアン、メヒアン
ナミュール滞在中の全プログラムを満喫。 We enjoyed every minute, every second.

○いっしょに行った仲間「チーム・ナミュール2023」の生徒たちとミエさん、シュウさん
いろんな経験を共にして、自主性と協調性の両方をもち合わせた素晴らしい仲間になりました。

日本とベルギーの教育事情比較

大垣市立興文中学校 國枝 秀祐

他国の学校を訪問できる機会は滅多にありません。日本とベルギーの教育事情を比較・分析してみます。

① 進路選択を迫られる時期が早い

Champion のように学問を追求するタイプの学校と IATA のような職業訓練校があるそうです。日本にも普通科の高校と専門家の高校がありますが、ベルギーの子供は 12 歳でどちらに進むか決める必要があるそうです。

→これは少し早い気がします。まだ自分の人生について深く考えられないであろう 12 歳の子供に、人生の決定は酷なのではないでしょうか。それとも、ベルギーの子供たちは早熟なのでしょう。

一方で、日本のように 15 歳で進路選択をする場合にも問題があります。それは、中学校において学びたくない科目の学習を強要されることで、生徒にとっても教師にとっても不都合が生じる可能性があります。

学問を追求するタイプの学校においても、大学のように学びたい科目を自分で選択することができるベルギーのシステムは魅力的だと思いました。さすがは多様性を重んじるヨーロッパの国の一つだと感じました。

② 性教育が進んでいる

16 歳で性教育の授業を全員が受けるそうです。教室にもポスターが貼ってあり、関心が高いように感じました。また、性の多様性への受け入れも進んでいました。

→日本では性教育は、話題にしにくい雰囲気があります。また、日本で性教育が位置付けられているのは、保健体育などの一部の教科で、十分に行われているとは言えない現状があります。

一方で、早い段階から性教育を行うことに抵抗を感じる人もいます。ベルギーでも、幼いうちから性教育を行うことに反発する運動があり、放火につながるほど過激になってしまったケースもあるそうです。

日本でも、性教育に関する議論をもっと盛んにしていく必要があります。



▲「自分がその気でも、相手にその気がなければだめ」と書かれたポスター

③ 教室にアートが見られる

階段、トイレ、教室、至る所に生徒の描いた絵が飾られていました。クラスルームプロジェクトとして取り組むそうです。

→日本では教室環境は、取り組みの表など実用的なものに限って掲示することが多いですが、ベルギーでは芸術によって日常を彩っている印象を受けました。日本も STEAM 教育の Art をもっと充実させていく必要があるように感じます。



笑顔での再会

公益財団法人大垣国際交流協会 吉安 三恵

4年ぶりのフレンドリー交流の再開が決まってからの約半年、本当にあっという間でした。再開が決まったとき、大きな期待がある反面、不安も抱えていました。2014年以降ナミュール側で調整をしてくださったオラフ校長先生が今年退職され、今までの交流に携わっていた方がナミュール側に誰もいない中での再開が大きな理由です。しかし、再開に向けて新しい担当のフロヒアン先生とメールのやりとり、オンラインミーティングを重ねるごとに、不安はすっかりどこかへ。再開へ向けてまっしぐらに進み始めました。笑顔でナミュール市のみなさんと4年ぶりに再会でき、今まで以上に充実した交流となりました。今回の訪問を終えて、心に残っていることが2つあります。

一つ目は「同年代との交流の楽しさ」です。交流主体となった Champion 中高一貫校に通う生徒の家庭でのホームステイという同年代の交流の機会を作っていただきました。そして、ホストシスター・ホストブラザーは、ナミュール市内見学やリエージュ訪問なども一緒に行動してくれました。好きなアニメの話や食べ物の話などで盛り上がり、いつも笑いが絶えず楽しそうにしている様子を毎日見ることができました。放課後の時間に生徒だけでボーリングに行く計画や最後のさよならパーティーの企画をホストシスター・ホストブラザーが立ててくれていたことを聞いた時には、感動しました。お互いに母語ではない英語でのコミュニケーションで、言いたいことが十分に言えないこともあったはずですが、でも、言葉を越えたところで心が通い合うことを両国の生徒は感じ取ったことでしょう。国を超えた友情が日に日に育まれていくのをひしひしと感じました。今回の訪問に関わってくれたナミュールの生徒13人は来年5月に大垣を訪問することが決まっており、再会を楽しみにお別れしました。文化、背景、言葉は違っても、それを越えたところで一緒に笑い合える関係、大切にしてほしいと思います。

二つ目は、「これからのナミュール市との交流に向けての新たな思い」です。フロヒアン先生と共に作り上げたこの交流の大成功は、言葉では言い表せないほど感動しました。この訪問でできた新しい友情は出発点です。今回の訪問中に6年前のホストファミリーに会ったり、過去に大垣を訪問した先生や生徒からメッセージをいただいたりして、繋がっていることに嬉しい思いでいっぱいでした。今回の訪問で出来た新しい出会いも大切に、友情関係をこれから長く育んでいきたいと心から思います。訪問するたびに感じるのは、多くの人に支えられて訪問ができ、そしてそれは過去から繋がってきた交流があつてのことです。今回の経験や感謝の気持ちを次の交流、次の世代に繋げていくことが、ナミュールを訪問した私たちの使命に感じます。

ベルギーの生徒から「日本人は静かだと聞いていたけど、本当ですか？」と聞かれるくらい元気で好奇心いっぱい、いつも笑いの絶えない8人の中学生のみなさん、この経験はきっとみなさんの人生の糧になるはずです。一緒に引率してくださった先生、目指してきた素晴らしいワンチームになりましたね。ありがとうございました。ナミュールで私たちと一緒に過ごしてくださったホストファミリー、学校の生徒、先生、この事業に関わった全ての方に感謝します。来年5月に笑顔で再会できることを心から楽しみにしています。Merci!!





ベルギーでの思い出



派遣団と共にいざベルギーへ！～不安から安心への長い1日～

大垣市立赤坂中学校3年 樋口 晴哉

私たちは、ベルギー研修に参加するために筆記試験などを受け、4回の事前研修を終え、出発式で市長さんに挨拶もして、とうとう出発の日、家族にも1週間のお別れをして出発しました。まずは成田国際空港の近くのホテルで一晩泊まりました。

成田国際空港に着くと、たくさんの人で、いっぱい、私にとっても久しぶりの空港で機械チェックインの時は少しの混乱はありましたが、特に問題なく搭乗できました。搭乗ゲートに行くと、NH231便がお出迎えをしてくれていました。成田空港からベルギーまでは約14時間でした。映画を見たり、睡眠をしたりして、飛行機で体調を崩さないように計画的に過ごしました。

日本時間午前 1

時(17日)ベルギー
時間午後6時(16
日)に着き、少しの
間、「これは現実
か？」と思いました。
空港内にある地
図や安全コーン、パ



スポートチェック場の人が喋っている言語などが全てフ

ランス語と英語で、混乱してしまいました。ブリュッセル空港の出口にはホストファミリーが私たちを迎えてくれました。もう日本と違いがあり過ぎて、本当に不安と混乱ばかりでした。

事前研修で習ったフランス語、既に習っている英語の力を発揮しようとしたのですが、伝えようとしても緊張で戸惑ってしまいました。でも、ホストファミリーは私を温かい目で迎えてくれました。伝わらなくてもジェスチャーなどを使って伝えました。ホストファミリーは全員優しく、「英語はどれぐらい喋れる？」や私が「フランス語を少し使ってもよいですか？」と聞くと、母語はオランダ語なのに、「いいよ」と言ってくれました。

ホストファミリー宅に帰る途中に、ホストファザーの仕事場に少しだけお邪魔して、庭で育てて



いる少し小さいブドウを食べさせてもらいました。日本では花は見るものですが、人生で初めて「花」を食べました。「花って食べられるのかな？」と思って食べると、味は酸っぱいのか、何とも言えない味がしました。少

しの間口の中に味や葉が残りました。家にいた犬も尻尾を振りながら、私を迎えてくれて「これからやっていけそうだ」と確信しました。私の心は不安から安心へと変化していきました。

Bonjour ! はじめの学校訪問（午前）

大垣市立北中学校 1 年 定井 七海

私は初めてチャンピオン学校を見て、「お城みたいで素敵！」と思いました。レンガ造りの建物、大きな窓、大きな庭があって、「私もここに通いたいな」と思いました。



最初に案内された部屋の端には、日本文化を学ぶ生徒が折った千羽鶴が飾ってありました。そこで、英語のフロヒアン先生がプレゼンをして、ナミュール市のことや学校のこと、歴史や文化などを伝えてくれました。

その後、ベルギーの生徒が学校内を案内してくれました。ベルギーの学校には制服がないためか、私が着ている制服や名札を見て興味をもっている様子でした。学校の中に水の自販機がありました。生徒は専用のカードを使って買うそうです。

次に、英語の授業を体験するために教室に入りました。生徒たちの席は指定されておらず、自由に座っていました。教室の中にはエアコンがありませんでしたが、窓が大きくて、風通しがよかったです。

英語の授業の最初に私たちから大垣市のプレゼンをしました。フランス語で自己紹介をしてから、英語で大垣市の紹介や日本文化の説明をしました。私はドキドキしながら終わりの挨拶を英語とフランス語で言いました。チャンピオンの生徒は興味津々で聞いてくれました。

英語の授業の中では、英単語を書いて当てるというゲームをしました。私は単語を書くのが遅くて焦りましたが、周りのベルギーの生徒は優しく待ってくれて、楽しく過ごせました。

ゲーム後、ベルギーの生徒と交流し、生徒の名前を漢字にあてて、マノンは「真音」、エレナは「英礼奈」と書きました。とても喜んでくれたので、私も嬉しくなりました。最初は、私のカタコト英語で通じるのかどうかが不安でしたが、日本文化を通じて交流ができて、感動しました。



次に、科学の授業に参加しました。光の反射の実験でとても楽しかったです。またこの授業でも生徒と交流があり、男子生徒とアニメのワンピースの話で盛り上がりました。まさかベルギーで自分の好きなアニメやマンガの話ができるとは思ってなかったので、とても楽しかったです。その男子生徒にも名前を漢字で書いてあげたら同じように喜んでくれて、私が書いた漢字を真似して頑張って書いていました。

ランチは広い教室でホットサンドをみんなで食べました。とても美味しかったです。ここでもアニメやマンガの話で盛り上がりました。

あっという間の午前中で、とても充実していて、心に残る体験でした。



～プレゼン・チョコづくり・空手～いろんな体験！学校訪問（午後）

大垣市立北中学校3年 西山 沙歩

午後にはまず、みんなで何回も練習をしたプレゼンを各教室をまわって行いました。日本のこと、大垣の文化や歴史、食べ物を紹介しました。また、合唱を披露したり、かぶとを折り紙と一緒に折ったりもしました。また、プレゼン内で紹介した紙鉄砲と紙飛行機にも興味津々になってくれて、紙飛行機の作り方を教えてみんなで外に飛ばしました。私たちの英語がうまく伝わるか心配でしたが、みんな楽しんで私たちのプレゼンを聞いてくれました。私たちも楽しくプレゼンを発表でき、よい思い出の1つになりました。



次に、チョコレート作りを体験しました。三種類のチョコを作りました。中にクリームが入ったチョコを作るにあたって、私たちがこの日に行った工程は次の通りです。

①チョコを型に流す②気泡を抜く③型に流したチョコを取り出す④かためて中にクリームを入れる 完成!!

クリームはバニラとヘーゼルナッツがありました。チョコを型に入れるとき、チョコが型から出てしまったり手が汚れたりクリーム絞る量や絞り方が難しく苦戦したりしました。他の2種はチョコにナッツなどをのせてデ

コレーションしたものと、クランチチョコのまわりにチョコをつけて転がしたものを作りました。日本で作るようなチョコレートとは違った甘さがあり、ミルクの味が広がる、まろやかなチョコレートができました。

学校が終わった後、それぞれのホストシスター、ホストブラザーと一緒に空手をしに行きました。本格的な空手教室で、その教室に通っている生徒さんに交じって空手を体験しました。「上段の突き」や「回し蹴り」などのたくさんの技を身に付けたあと、試合をしました。私たち派遣団員のなかには空手経験者はおらず、ホストシスター、ブラザーのなかにもいなかったもので、みんな基本も何もわからず、ただただ難しかったです。やる前はすごく寒かったのに、気付いたら汗をかいていたぐらい終わった後は暑かったので、それぐらい集中してやったんだなと思いました。何人か空手のセンスのある子がいたみたいです。空手を体験してみて少し強くなった感じがします。とても楽しかったです!!!!



←紙飛行機を外に飛ばしている時の写真
プレゼントしたかぶとをかぶって楽しんで紙飛行機を飛ばしてくれました！



IATA 専門学校・市役所・ナミュール城塞訪問

大垣市立星和中学校 2 年 岸本 芹奈

9 月 19 日は、IATA 専門学校とナミュール市役所を訪れました。IATA 専門学校は、丘の少し高いところにあり、眺めのきれいなところです。IATA 専門学校にはたくさんのコースがあります。私たちは、それぞれ印刷、時計作り、写真を専門とするコースを見学しました。

印刷のコースでは、壁や床に貼れるシールを作ったり、製本をしたり、版画のように、文字を手で印刷したりしていました。印刷機の中には、MIMAKI という会社が作った日本製の印刷機や、木材に印刷する機械もありました。

時計作りのコースでは、そのコースの中の 2 つのクラスを見学しました。一つは中学生ぐらい年齢の生徒さんのクラスで、どこかを動かすとどこかが連動する仕掛けのようなものを作っていました。日本でいう江戸時代ぐらいに作られたという時計も見せてくれました。二つ目のクラスでは、高校生ぐらいの生徒さんのクラスで、とても細かい作業をしていました。懐中時計ぐらいの大きさの時計の部品に色を塗っていましたが、色を塗るところがとても小さく、目に小さなルーペをつけていました。とても細かい部品ばかりで、とても真剣に作業していました。この学科では、地域の人が持ってくる時計の修理などもするそうです。



写真のコースでは、大きな照明のある暗いスタジオで、一人一人の写真を撮ってくれました。写真はとても画質が良く、きれいに撮れていて感動しました。

そのあとは市役所を訪れました。市長さんやベルギーの日本大使館の人の話を聞き、フランス語で一人一人自己紹介をしました。その後、ナミュール市のマスコットキャラクターの、Ruman のキーホルダーなどが入っているプレゼントをいただきました。以前、ナミュールの訪問団が大垣に来た時に、大垣城の近くにこのキャラクターの像が置かれたことがあったそうです。日本のゆるキャラとはまた違う感じで、面白かったです。



市役所の外壁には、全面に絵が描かれており、とても楽しい雰囲気でした。ベルギーでは、市役所だけでなく、たくさんの建物の外壁に絵が描かれています。レンガ造りの建物と、描いてある絵がマッチしていてとてもおしゃれです。市役所にある絵の中には、ベルギーの竹馬を使うスポーツをする様子や、有名な食べ物など、たくさんのものが描かれていました。

その後、市内を散策しました。ロープウェイに乗ってナミュール城砦に行きました。ナミュール城砦のてっぺんからは、ナミュールの街と川が見られて、とてもきれいでした。また、ナミュール城砦には、なぜか、目隠しした金色の人が乗った金色の大きなカメがいました。

たくさんの景色や物が見られて、とても楽しい一日でした。

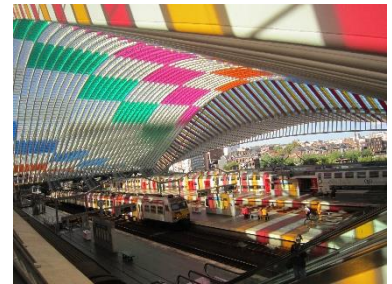


魅力いっぱいのリエージュ

大垣市立東中学校 2 年 山川 夏実

リエージュといえば、「ワッフル」といわれるくらいワッフルが有名な街です。ここでは手のひらより大きい焼きたてあつあつのワッフルを食べることが出来ます。外はカリカリ、中はほくほく。私は中にチョコレートの入っているものを選びました。一口かじるとチョコレートがとろけて出てきて思わず笑みがこぼれました。

この街へはナミュールから電車で 1 時間ほどかけて向かいました。ベルギーは日本の駅と違い改札がなく、近未来感あふれるデザインで、まるで異世界へ来たようでした。屋根は大きな曲線を描き、ストライプとスクエア柄のステンドグラスが施されています。プラットフォームや電車にその影が映ると夢の世界が広がります。思わずカメラのシャッターを切っていました。



最初に訪れたのは、現在裁判所になっているプランス・エベック宮殿です。建物が美しいのは言うまでもありませんが、時計の下の動物や柱の彫刻が『ザ・ヨーロッパ』という感じでとても印象的でした。また入口の前に大きな何本もの柱がありましたが、これは昔、パリのノートルダム寺院より大きな建物があった名残だそうです。



ワロン民族博物館は、17 世紀に女子修道院として使われていた建物です。中には炭坑が盛んだった頃の様々な道具類が展示してあり、ワロン地方の歴史や文化、昔の人々の日常生活の様子を知ることができました。歴史で習った産業革命の頃かなと学んだことと重ね合わせて展示物に目を通しました。



ワロン民族博物館から少し歩くと、目の前にリエージュの城砦跡へと続く長い階段が見えました。その数、なんと 374 段と聞いてびっくり。階段は登らず、回り道で行ったのですが、結果的にこちらの方がたくさん歩くことになりました。この辺りは、レンガ造りの家や塀などの街並みと石畳が続きます。ベルギーといえばレンガと言われるほど、伝統的なものだそうです。

途中、芝生の上で昼食をとりました。その後、ホストブラザーやシスターたちも交え、「だるまさんが転んだ」をして遊びました。ホストブラザーたちは日本のあそび「だるまさんが転んだ」をどの程度分かっていたかは分かりません（笑）。しかし、この年でベルギーの地でやった「だるまさんが転んだ」は忘れられない良い思い出です。再び登り始め、ついに頂上へ。リエージュの街全体を見下ろすことができる頂上からの眺めは最高で、晴れていて本当に良かったです。

この街は、古い歴史を大切に現代まで残しつつも、工業都市として近未来的発展を感じられてとても素敵なおとろでした。

学校訪問といちご博物館と別れ～今まで過ごした中で最高の一日～

大垣市立東中学校 1年 近藤 為希

Champion 学校訪問からいちご博物館、お別れパーティーを予定しており、かなりハードな7日目。この日、Champion 学校で私が受けた授業は社会科でした。フランス語でカースト制度らしきことを教えていました。僕には99パーセント分からなかったもので、日本語以外の言語の迫力に圧倒されっぱなしでした。

Champion 学校からいちご博物館への道中では、とあることに気付きました。それは、住宅街でもレンガ造りの家が多いことです。街中から離れた地域でも、美しい街並みにしようという懸命さが伝わってきました。街中でも、古い街並みにうまくマッチするデザインの建物が多かったです。それらのほとんどが縦のデザインで、木の格子を縦に並べたり、縦長の窓を使っていたりしました。日本でも京都のほうに行くと落ち着いた色の建物が多くなりますが、ベルギーではどの地域でも古い街並みが残され、それに合うように設計されていました。

いちご博物館では、館の方が分かりやすく英語で話してくださったのですが、自分の乏しすぎる英語力ではほとんど分からず、たまに「ストロベリー」と聞こえてくるだけでした。そして、イチゴジュースを飲み干し、一番安かったコップを記念に買いました。「さあ帰るかー」と思っていたら、どうやら農園に行くとのこと。そこからが天国でした。いちごはほとんどなかったのですが、ぶどうやベリーは大量にあり、食べて食べて食べまくりました。その農園では、他にもドングリやリンゴ、謎の木の実等を食べました。



自由行動の時間では、ワッフルを食べました。ベルギーの料理はとてもおいしいのですが、ベルギー人は米を食べる習慣はありません。僕はとても米が恋しくなりました。「もう小麦はこりごりだ」と思っていました。しかし、ナミュールの街中でブリュッセル風のワッフルを食べたとき、サクサクで予想以上においしかったです。

さよならパーティーでは、大垣についてプレゼンしました。難しい箇所を噛まずに言えて、「よっしゃ！」と思いながら心の中で飛び跳ねました。そこにはドリンクに炭酸入りのレモンティーがあったので試しに飲んでみたら、「最初はレモンソーダ、あとからお茶」のような何とも言えない味でした。「これがベルギーの味か！」と思いました。ベルギーの学生の方々は、全員真面目に聞いてくださいました。一生懸命練習してよかったです。途中、お腹が痛くなり、トイレにかっこんだら自分達団員の歌声が。戻ってみると感動の思い出のシーンで、私達の歌に合わせて思い出のスライドショーが流れていたそうです。「悔しいー！」と嘆いても後の祭り。翌日録画を観ました。

自分のホストファミリーと過ごす最後の日。過ごす時間は短かったですが、たくさん交流ができたと思います。

パーティーが終わったら、大垣のはっぴを着せてあげました。丁度よいサイズで、とても喜んでくれました。

悲しかったり、でも楽しかったり。関わってくださったホストファミリーや先生、団員のみんなに感謝したいです。



アントワープでは昔、手を投げていた？！

大垣市立興文中学校 2年 森 心梅

8日目、私たちはアントワープを訪れました。アントワープという名前の伝説を紹介します。伝説はその昔、猛威を振るっていた「アンティゴーン」という巨人が川を通る通行人に重い税を課していて、税を払わない者の手首を切り取って捨てていたそうです。ローマ軍を率いていた「ブラボー」がこの巨人を征伐し、この巨人の首と右手を切り取って川へ投げ捨てた。この巨人の手「Ant」を切り取って投げた「Werpen」からアントワープになったと言われています。この伝説によって、アントワープのマルクと広場には巨人の手を投げている「ブラボーの噴水」という像が1887年につくられたり、手をイメージしたクッキーやチョコレートが親しまれたりしています。この伝説を知って私は、こんなにきれいな町なのに、昔は非道な行為をしている人がいたことにびっくりしました。

到着した私たちは、まずアントワープの観光をしました。その途中でその像を見つけ、みんなで手を投げるポーズをまねしてみんなで写真をとりました。その後、私たちは2つの教会に行きました。1つ目は、聖パウロ教会、もう1つは、聖母大聖堂です。聖パウロ教会には、たくさんの絵画や彫刻、立派な祭壇などがありました。特に目に付いたのが祭壇の前に並べられたたくさんの椅子です。そこに座って懺悔（お祈り）するそうです。2つ目の聖母大聖堂には、フランダースの犬のネロがずっと見たがっていたルーベンスの絵が飾っており、ベルギーに行く前にフランダースの犬の本を読んで感動した私はどんな絵なんだろうととても楽しみでした。大聖堂の中に入ってみると、大聖堂というだけあって聖パウロ教会よりもたくさんの立派な絵画や彫刻、祭壇がありました。祭壇の奥には、ネロが「1度だけでいいから見てみたい」と言っていたルーベンスの絵がありました。それは、死んでしまったイエスが十字架から下ろされる絵で、結構残酷な絵だったけど、とても美しかったです。またこの教会では、午前中に葬式を行っていたらしく、こんな美しい場所で葬式を開いてもらえるのはなんて幸せなんだろうと思いました。教会の床



を見ていると、床に文字が書いてあるのを見つけ、何だろうと不思議に思い、ガイドさんに聞いてみるとそこに死んだ人が埋められているそうで、日本のお墓のように暗い感じではなく、とてもゴージャスだったから私も死んだらここに埋められたいなと思いました。この2つの教会は、日本の教会よりとても大きな教会だったため、迫力があり、圧倒されました。

アントワープは、THE ヨーロッパって感じがして、町並みも建物もすべてが日本と違ったからすごく圧倒されたし、魅力あふれる街でたくさんのことが見て知れて、とっても楽しい1日になりました。



ブリュッセル訪問で目がずっとキラキラ…！！

大垣市立興文中学校 2 年 千田 桃彩

最終日は、ベルギーの首都ブリュッセルへ行きました。

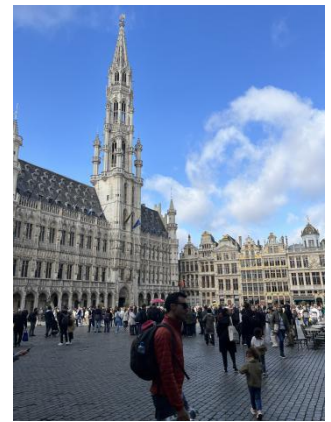
初めにEUの議場に行きました。その場所にはもともと駅があって、その形を残したつくりになっています。入口には、27 加盟国の国旗がずらっと並んでいて、こんなにたくさんの国が加盟しているのだと感じました。そして、今、話し合いが必要なテーマが写真で大きく出ていて、その工夫がわかりやすくていいアイデアだと思いました。

中に入ったらびっくり！大垣の議場とは比べ物にならないくらい大きいのです。議席数はなんと、705 席で、国ごとに席が割り当てられ、ドイツが一番多いと聞きました。24 カ国語がEUでは話されているため、通訳の部屋もありました。EUは去年学校で習ったので、そのこととつながることもありとても面白かったです。



2 つ目はベルギー王立美術館です。昔の様子を表す絵がありました。

見たこともないくらいのおおきな絵があったり、ベルギーらしく、隠れワッフルがある絵もあり、楽しんで見ることができました。教科書にもものっている絵もありました。ガイドさんの話を聞いて、昔の様子や、その絵が伝えたいことがよくわかって面白かったです。



3 つ目はグランプラスです。到着する直前、ガイドさんに「目を閉じて」と言われたので、目を閉じていきました。目を開いたら…びっくり!!ととてもきれいで美しい建物が広がっていました。さすが世界遺産と思えるほどでした。グランプラスのシンボルである市庁舎は、1400 年代に作られたとは思えないほど、豪華な建物でとても印象的でした。この日は、グランプラスで結婚式が行われていて、私たちも幸せな気持ちになりました。夜のライトアップもすごくきれいだと聞いたので、見てみたいと思いました。

最後に小便小僧を見ました。私たちが行ったときは赤い衣装を着ていました。実は衣装は 1000 着以上あるそうです。小便小僧は、世界三大がっかりスポットと言われているけど、人気スポットでした。

ブリュッセルは、見るもの 1 つ 1 つが日本と違って、目がずっとキラキラしていたような気がします。街を歩くのがとっても楽しかったです。





ホームステイの思い出



大きすぎる家と優しすぎるホストファミリー

大垣市立東中学校 1年 近藤 為希

私のホストファミリーは、見るからに優しそうで、実際とっても優しい方々でした。ホストブラザーの名前はマクシミリアン。みんなマックスと呼んでいました。ベルギーに行く前に写真を見たのですが、他の家族の写真は見ていないので、完全初対面という形となりました。しかし、皆さんとても優しい方で、安心したけれど、まだドキドキしながら家へ向かいました。

その日の夜は、美味しそうなサーモン料理で、ドレッシングらしきカップが横に置いてあったので、かけたら甘く、聞いてみたらハチミツとのことでした。衝撃的でした。

家の様子は、ペットの数がとても多く、犬一匹、猫二匹、ウサギー匹とびっくりするくらいいました。猫はとっても可愛いのですが、スーツケースの縁をハムハムされたので、マクシミリアンに抱き上げてもらいました。家はこれでもか、というくらい広く、メインで住む家の他にサブの家らしき家があり、サウナや2つめダイニングテーブルがありました。そしてメインの家はというと、地下を含め4階建てで、3階にはなんとPS5が置いてあり、そこでフォートナイトをやったのですが、2位で終わりました。とても悔しかったです。

リビングには20人位座れそうな超でかいソファや、2つものダイニングテーブルがあり、おまけに、朝ごはんのワッフルを盗んだ犬がいました。あの時は悔しかった…ワッフルを袋ごと食べられたのです。

2日目の1日フリーな時間では、ベルギーで有名な漫画、「TINTIN」（タンタンと読む、ローマ字のまま読まないで）の美術館に連れて行ってもらいました。日本っぽいキャラもいて、嬉しかったです。



家に帰ったら、さらにびっくりすることになります。マクシミリアンとそのお父さんと一緒に、家のプールで泳ぎました。ベルギーは秋なので、とっても寒かったです。朝学校に行く時は、レンジローバー（と父が教えてくれた）という車で、144キロで行きました。車内では一緒にきれいなアーチを描いた虹を見ました。それは1番の思い出です。

日本から持ってきたお土産を、一個一個、超カタコトの英語で話して、説明しながら渡しました。どれもとても喜んで受け取ってくれました。

最終日の前日、学校から戻るときれいにベッドメイキングされていました。自分の荷物が散らかった部屋も、きれいに整えて下さっていました。しかし、僕がスーツケースの整理をしていたら元通り！また散らかってしまいました。最終日は、前の晩英語で書いた手紙を渡し、マクシミリアンに泣きながら抱き着いて別れました。「Mer ci、Mer ci」と言いながらハグし、悲しいまま



バスのドアが閉まってしまいました。その後少々悲しかったのですが、自分はバスで酔ってしまい、すっかり30分後には悲しくなくなりました。

こんな感じで、とても良い、いや良すぎる程の体験ができました。「第2の家族」これはホストファミリーと過ごした人の定番のセリフですが、それは本当でした。また来年の5月位に大垣に来るらしいので、進化した英語力で話したいです！

Merci ! ホストファミリー～過ごした時間は宝物～

大垣市立北中学校 1年 定井 七海

私のホストファミリーは、ホストシスターの Rose、父、母、姉のエバ、弟のラファエルの 5 人家族でした。Rose と事前にメールでやりとりをしていたのもあって、初めての海外の不安よりもホストファミリーに会えるという楽しみでワクワクしていました。

Rose の自己紹介で、実は Rose は「ローズ」と読むのではなく、フランス語の発音で「ホーズ」または「ホズ」ということがわかりましたが、最初は聞き取りが難しかったです。



日本のお土産を渡したときは、「Wow!!」と驚かれました。なぜなら私はグミやチョコレートなどのお菓子、文房具、手ぬぐいやけん玉などのお土産を、スーツケースにいっぱい詰めて持って行ったからです！猫のアルバスにもチュールや猫のおもちゃをあげました。

2 日目の朝は、ホーズと一緒に近所を散歩しました。ベルギーの建物や風景が、日本とは全く違うので、自分がここにいるのが不思議で、まるで異世界に来たみたいだと思いました。

午後はホストファミリーとワロニー地方のお祭りに行って、竹馬合戦をみました。大勢の男性



が高い竹馬に乗っていて、相手を竹馬から落とすゲームだそうです。ベルギーの人達は、とても楽しそうに見ていました。何もかもが新鮮で、充実した時間を過ごせました。

3 日目は、デレーゼという大きいスーパーマーケットに行きました。大きいチーズがあったり、オレンジジュースだけでもいくつもの種類があったりして、楽しかったです。

家では折り紙や、ジェンガをして遊びました。私の妹が折ったアニメキャラの折り紙をラファエルにプレゼントしたら、とても喜んでくれました。

5 日目はホストファミリーと過ごす最終日。ホストファミリーにお好み焼きを食べてもらおうと練習してきたのですが、なかなか作る機会がなく、焦っていました。学校でサヨナラパーティーがあり、帰宅が遅くなりましたが、絶対に食べてもらいたかったので、深夜にキッチンを借りて、明日の朝に食べられるように準備しました。キャベツはなく、豚肉の代わりにハム、紅ショウガなどを入れて焼いていると、ホーズやエバが「とてもいい匂い！楽しみ！」と言ってくれました。タワーができるほどたくさんお好み焼きを作りました。

最終日の朝に、ドキドキしながらホストファミリーにお好み焼きを食べてもらおうと、「美味しい」と言ってくれたので、大成功です！エバはお



弁当にもっていってくれるほど気に入ってくれました。ホーズが日本に来たら、本場のお好み焼きを食べてもらおうと思います。



お別れの時に、手紙と「ありがとう」と書いた習字を渡しました。ホストファミリーには感謝してもしきれません。緊張している私にたくさん話しかけてくれて、優しく親切にしてくれてありがとう。一緒に過ごした時間は宝物です。Merci ! 本当にありがとう！

言葉が通じなくても友達に

大垣市立星和中学校 2年 岸本 芹奈

私たちがベルギーに行った日、ホストファミリーの家には、ホストファミリーの親戚の人たちもいて、皆で歓迎してくれました。最初はあまりしゃべれませんでしたでしたが、次第に打ち解けみんなとコミュニケーションをとることができました。私のホストファミリーは4人家族でした。ホストシスターのアナイス以外、英語を喋れませんでしたでしたが、ジェスチャーやスマートフォンの翻訳機能を使ったり、アナイスに通訳してもらったりして、私に話しかけてくれました。



私たちがベルギーに行ったとき、運がいいことに町でお祭りが開催されており、初日はそれに連れて行ってもらいました。開催されていたベルギーのスポーツや、いろいろな建物について、アナイスが説明してくれました。そのスポーツとは、2チームに分かれて竹馬に乗り、相手のチームの竹馬をけて相手をも落とすゲームです。また、そこにいた警察官が馬に乗っていてびっくりしました。騎馬警察で

す。たくさんのものが見られて、とても楽しかったです。

ベルギーのご飯は、魚があまりなく、ポテトフライをよく食べました。ポテトフライは日本のものよりほくほくしていて、ほぼ毎食と言っていいほどよく出ました。夕ご飯で、私が白い服にトマトソースを飛ばしてしまいました。そのとき、ホストマザーがそのしみをとてもきれいに消してくれて、とてもびっくりしました。



お別れパーティーの前日には、アナイスとその妹のルーナ、一緒に研修に参加していた沙歩とそのホストシスターのサオナと一緒に、ティラミスとケーキを作りました。ティラミスの一番下の層には、ベルギーでよく売っているクッキー、スペキュロスをコーヒーに浸したものを使いました。また、作ったアップルケーキのリンゴは日本ではあまり見ない青りんごでした。サクランボのような味がしました。「日本には青りんごはあまりない」と言ったら、おみやげにくれました。ほかにもいろいろ話して、とても楽しい時間でした。

私はあまりコミュニケーション能力が高いほうではないので、一週間でホストファミリーと仲良くなれるか心配でした。けれども、相手から色々話しかけてくれて楽しく過ごせました。お別れ前日の夜、私が荷物をまとめていたら、アナイスが自分の部屋で泣いていました。私はこの一週間で、



アナイスにとって泣いてくれるほど近い存在になれていたんだなあと思い、とてもうれしく思いました。アナイスが日本に来る日が楽しみです。

フランス語や英語がしゃべれなくてもコミュニケーションが取れるか心配だったけれど、とても楽しいホームステイでした。本当にこの研修に参加できてよかったなと思いました。これからもいろんなことにチャレンジしたいです。

新しい！面白い！楽しい！ばかりのホームステイ！！

大垣市立興文中学校 2年 千田 桃彩

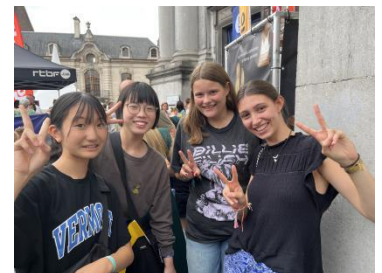
私のホストファミリーはお父さんアレクス、お母さんクリスティン、ゾエ、妹のロミー、犬のエビス、猫のゾホの楽しい家族でした。

飛行機の中で、やっとホストファミリーに会える！と楽しみでたまりませんでした。空港のゲートを出たら、ホストファミリーが盛大に迎えてくれていました。それを見た瞬間、長い長い14時間のフライトの疲れも吹っ飛びました！！空港から家までの車から見えるものすべてが新しい光景でついに日本から飛び出した！と感じました。車の中でも、家に着いてからも、わいわい楽しい時間を過ごせたけれど、がんばって伝えようとしても伝わらない時もあるって、言語の違いの難しさを強く感じた日でした。その日は、もっとコミュニケーションをとりたかったという悔しさや通じ合えるのかという不安があって、落ち込んで寝た日でした。



次の日の朝、もっといつも通りの自分で楽しもう！！と気合を入れて、フランス語で「ボンジュール！！」と元気に笑顔で挨拶しました。それにホストファミリーも笑顔で返してくれました。挨拶は人の笑顔と親しみをつくる大切なものなんだと実感しました。その日は休日だったので家族みんなで朝ご飯を食べました。「セ ボン！！」とおいしいと伝えたら喜んでくれました。コミュニケーションをとろうと一生懸命考えながら過ごした朝ごはんの時間は、私にとって特別でした。

朝食後は家族でお散歩をした後、ナミュール市で行われたワロン地方のお祭りに行きました。日本みたいに屋台が並んでなかったところとか、日本のお祭りとは違う所がたくさんあって、楽しくて面白かったです。その日はいっぱい話して、ずっと一緒に過ごしていたので一気にホストファミリーと通じ合い仲良くなったような気がします。一生懸命聞いて話すことはすごく楽しいと感じてきました。



平日は学校があり、多くの時間は過ごせなかったけれど、お母さんとスーパーに行ったり、カードゲームをしたり、お母さんの手伝いをしたり、犬と遊んだり、英語が話せない妹とも知育菓子（お菓子のすし）やスクラッチアートをしたりしてたくさん遊んで楽しいことばかりでした。外国の人と通じ合えることが楽しくて仕方がないくらい、話すことが大好きになりました。



初めは、すごく不安で落ち込んだ時もあったけど、このホームステイを通して日本語じゃない言語で通じ合うことの楽しさを1番感じる事ができたと思います。ホームステイが楽しいと感じるようになってからは一瞬で時間が過ぎました。まるで家族の一員になったような気分でした。最後の日の朝はすごく寂しくてもう終わりという実感はなかったけれど、最後に家を出る時にたくさんの思い出が頭に浮かびました。この短い期間での思い出は一生忘れません。このホストファミリーが私のホストファミリーで本当によかったです。またいつか、必ずベルギーに行きたい！そして、家族とずっとこの関係を大切に続けていきたいです！！

にこにこのホームステイ

大垣市立興文中学校 2年 森 心梅

私の家族は、16歳のホストシスターのカミーユと、やさしく笑顔いっぱいのお母さんとお父さん、猫のフィルの4人家族でした。

どきどきのホームステイが始まりました。緊張しやすい私は、うまく会話ができるか不安でした。でも、空港で初めてホストファミリーと会ったとき、私がこれまで練習してきたフランス語での自己紹介を一生懸命聞いてくれました。そして、“I'll carry your suitcase.”と私のスーツケースを運んでくれたり、家に行くまでの時間も進んで話しかけてくれたりしました。ホストファミリーのおかげでとても不安だった気持ちが少し楽になった感じがしました。初めての家での夕食では、とってもおいしかったけど、思っていた以上にごはんの量が多く、がんばって食べていたら、お母さんが「おなかがいっぱいだったら、無理に食べなくてもいいよ。」と言ってくれて嬉しかったです。食べ終わった後、自分の部屋に戻り、夕食のときにすごいファミリーに氣を使わせちゃったことや、自分から言うことができなかったことを後悔しました。だから、明日からは素直に伝えよう！と決心しました。

2日目は、ナミュールで行われたワロン地方の伝統的なお祭りに行ってきました。竹馬に乗って相手を倒し合う競技をみました。ベルギーにも竹馬があるんだとびっくりしました。学校では、日本と違うことがたくさんありました。また、自分の気持ちを素直に伝えることができ、楽しかったです。



5日目には、日本から持ってきたおにぎり、味噌汁、緑茶のキットを使って、ホストファミリーと一緒に、日本の食事をつくりました。作っているときも食べているときも、ホストファミリーが楽しそうに作ってくれていたから、私も一緒に楽しむことができました。食べるときには、プレゼントした日本の箸を使ってくれました。上手につかめなかったけれど、日本の文化を体験してくれました。笑顔がいっぱいの1日を過ごせて、ホストファミリーとの仲も

深まったなと感じました。

最初は、ホームシックもあり不安ばかりだったけれど共に過ごしていくにつれ、ホストファミリーやベルギーの人とも仲が深まり、たくさんのベルギーの友達ができました。ベルギーでの生活があったという間に過ぎていったから楽しめていたんだなと実感することができました。ベルギーでつけた力を日本に帰ってから発揮し、成長した姿でまた会いに行きたいです。また、ホストファミリーとの関係を絶やさないように誕生日のときにカードを送ってあげるなど定期的に連絡を取り合って、交流を続けていきたいです。” Merci!”



人とのつながりで人生が豊かになる

～オットーファミリーへ ホームステイ～

大垣市立東中学校2年 山川 夏実



お父さん、お母さん、4つ上のヤニック、2つ上のマリン。これが私のホストファミリーです（写真上）。ホームステイの1ヶ月前、マリンから1通のメールが届き、私たちの付き合いが始まりました。出発前は楽しみでわくわくしていましたが、到着した日は聞き取れない英語の言葉も多くて、私の不安は一気に膨らみ、その日の夜は涙が出てきました。



翌日、ホストファミリーと一緒にサックスを発明したアドルフ・サックスの出身地、ディナンへ行きました。その街は絵葉書を切り取ったように美しく、街中のいたるところにサックスのオブジェがありました。（写真）断崖絶壁の麓に建つノートルダム教会の景色も最高でした。みんなが代わる代わる英語で説明をして案内してくれたことがとても嬉しく、家族の温かさを感じました。夜はみんなに得意のバルーンアートを披露しました。「おお！すごい！」と喜んでくれ、好きなものを一緒に作って楽しみました。お父さんとお兄ちゃんは特に興味をもったようで、自分でアレンジも加え家族で楽しい時間を過ごしました。

3日目の夜には事前にメールで「教えて」と言われていたお寿司をつくりました。言われたときは、お寿司なんて握れないから困ったなあと思いつつも楽しみにしてくれている様子が伝わってきました。それで簡単な寿司だけでもと出発前にマスターしていきましました。みんな興味津々で手まり寿司と手巻き寿司を作り、喜んで全部食べてくれました。最後の夜に、私から感謝のメッセージと家族の名前を漢字で書いた色紙をプレゼントすると、「大切に飾っておくね」と言ってくれました。

ホームステイ生活の始まりは不安で涙もありましたが、いつの間にか笑顔で過ごせるようになっていました。私が難しいと感じていたコミュニケーションでは、知っている単語やジェスチャーで気持ちを伝えました。決してスムーズに会話ができたわけではありませんが、家族に支えられ、私は文法が違っていようが英語をどんどん使うようになりました。人生でこれほど英語を使ったことはありません。伝わったことが嬉しく、自信にもなりました。最後には、5月に日本で再会することを誓ってマリンと別れました。



この体験を通じて、私は文化や生活、言葉の違いはあってもお互いを思い理解しようとする気持ちが何よりも大切だと学びました。「『自分と違う』という理由で壁を作るのではなく、違って当然、そういう人とつながり合えることでより人生が楽しく豊かになる」という前向きな気持ちでこれからも自分の世界を広げていきたいです。

かけがえない時間

大垣市立北中学校3年 西山 沙歩

私のホストファミリーは、ホストマザー、ホストファザー、ホストシスターのサオナ、ホストブラザーのノアム、そして2匹の犬のキキヤとレイキヤ、猫のスキャーレットでした。

行くまではサオナとしかメールのやり取りをしていなく、他の3人がどんな人なのか想像もつきませんでした。さらには日本語を聞くことがない中での生活を初めて経験する私にとっては不安な気持ちが大きかったです。でも、空港で会ったとき「元気？」(ca va?)とフランス語で聞いてくれて、「元気だよ！あなたは？」(Oui, ca va, et toi?)と私もフランス語で答えるとすごく喜んでくれました。そして何よりその会話で一気に打ち解けることができました。



2日目は、ブルージュに連れて行ってもらいました。ナミュールから電車で2時間ほど乗ってついた先には絶景が広がっていました。ボートに乗ってブルージュの街や聖母教会などの有名な建造物をたくさん見ました。お昼には、レストランに入ってパスタを食べました。ホストマザーとホストファザーはお皿いっぱい山のように盛り付けてあったムール貝を食べていて驚きました。私も、1つもらって食べてみましたが、アサリやカキとは違った味で、おいしかったです。午後からは、教会の中に入ったり、チョコを買ったり、ベルギーワッフルを食べたりしました。リエージュワッフルを食べたのですが、すごく甘くておいしくて幸せでした。

3日目以降は、送迎の車の中や朝食や夕食のときにしか話せなかったけれど、その日してきたことを伝え合ったり、フランス語をたくさん教えてもらったりしました。また、一緒に割り箸鉄砲をつくって遊びました。そして、私の家族のアルバムを見せたりお土産をあげたりすると「Merci!!」と笑顔で言って喜んでくれたので、嬉しかったです。特に、抹茶のお菓子をあげると、ノアムが大の抹茶好きだったみたいで、「おいしい」と何個も食べてくれました。

とうとうお別れの日が来てしまいました。最初は不安でいっぱいだったし、正直日本に帰りたと思うこともありましたが、過ごしていくうちに「この日だけは来てほしい…」と思えるようになっていました。お別れするのはすごく悲しくて、お互いに泣いていました。でも、それぐらいなじめていたと思うと安心しました。ホストファミリーに「サホは私たちの家族だよ」と言われたのが嬉しくて、すごく心に残っています。ベルギーで過ごした時間は私にとってかけがえないものになりました。そして自信がもてました。次に会うときは、少し成長した自分をホストファミリーに見せられるようにフランス語を勉強することをがんばりたいです。素敵な時間をありがとう、Merci!!!



思い出がたくさん詰まったホームステイ

大垣市立赤坂中学校 3年 樋口 晴哉

私のホストファミリーは4人家族です。お父さんのオリバーとお母さんのアノウク、ホストシスターのアマンディー、ホストブラザーのマーティンです。

私のホストファミリーは、少し日本語を知っているらしく例えば、「おはよう」や「ありがとう」です。私のホストファミリーは、「この言葉は英語でこういうけど、日本語でどういうか教えて」や「これは日本ですか？日本にあるの？」などの質問がありました。例えば、「どういたしまして」や「いただきます」「これは日本語で〇〇と言うよ。」など日本についてたくさん教えてあげました。日本を紹介する本もあげました。ホストブラザーが、私にハウスツアー(家の中を紹介)をしてくれたり、シャワー室の使い方も教わって初日からスッパリした状態で生活できました。



ホストファミリーの母語はオランダ語ですが、フランス語も少し分かるみたいで、「セテトレボン」や「メルシー」などを伝えると、私の教えた「どういたしまして」が返ってきて「早速使ってくれているな」と思いました。私がお土産として持って行った竹とんぼや紙風船、シャボン玉などで遊んでくれました。

1日ホストファミリーと過ごす日には、ホストブラザーが所属しているスポーツ団体と一緒に参加し、出発地点の公園から到着地点のアスレチック場まで、30分から40分くらいかけて歩きました。アスレチック場では、ジップラインを体験しました。

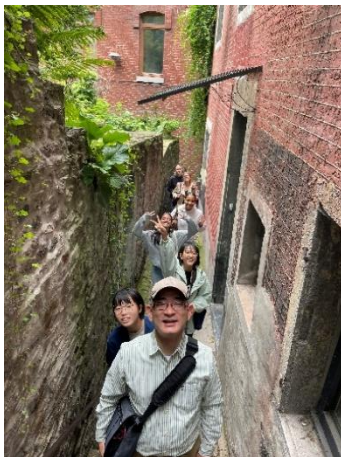
帰りは、ホストマザーとシスターが迎えに来ていて、徒歩で帰りました。家に帰った後少し休憩して、ホストファミリー宅から車で10分くらい行った所にある城に行きました。

約5日間お世話になり、ホストファミリーとの距離も縮まりました。ホストファミリーはいつも私の面倒を見てくれました。

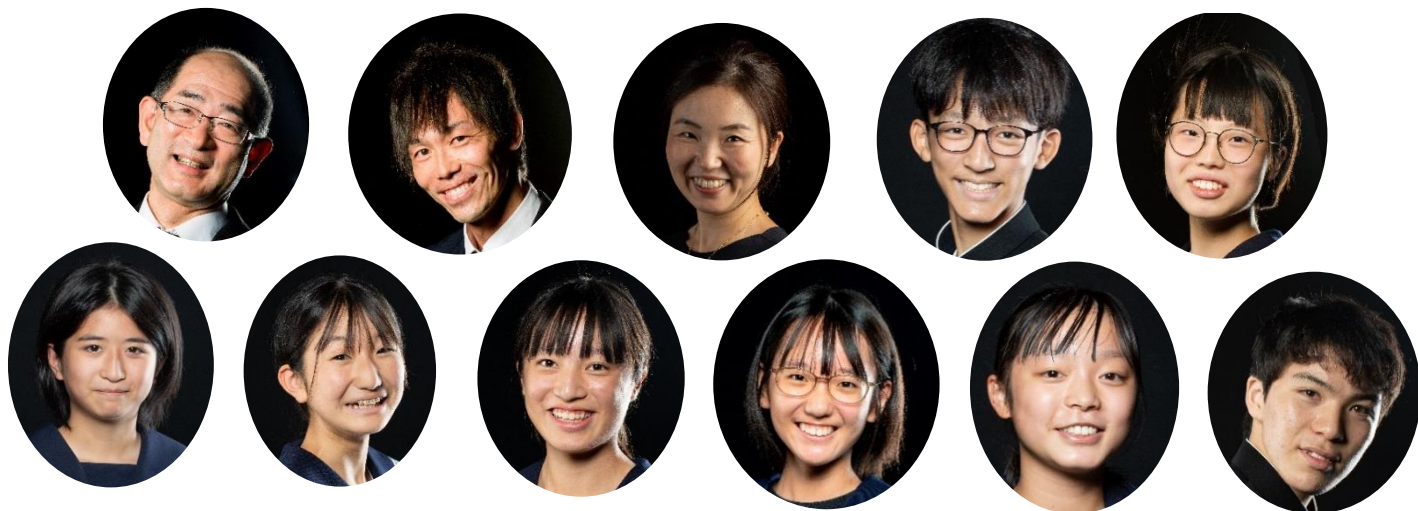


お別れパーティーや最後の朝の日にはしっかり「感謝」の気持ちをたくさん出せたので良かったです。

将来、自分が進化した状態でベルギーにまた訪れたいです。この素晴らしい経験を一切無駄にせず日本でもその成果を発揮し、今後の勉強や生活などにもベルギー研修の力を出していきたいです。







【第9回 大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣報告書】

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会

大垣市室本町5丁目51番地 スイートピアセンター学習館2階

TEL : 0584-82-2311 URL : <https://www.i-oiea.jp>

発行 令和5年(2023年)12月